

みんなの「なんな一の?」を伝えるこども記者のための新聞(毎月1回発行)



# 信毎こども記者ニュース

発行/連絡先

こども記者クラブ(信濃毎日新聞地域活動部) 〒380-8546 長野市南県町657  
TEL 026-236-3110 FAX 026-236-3193 電子メール t-chiiki@shinmai.co.jp

no.51

## ロボット ロケット すごかった!

ロボットやロケットって聞くとわくわくするね。ロボットがそばにいればいろんな手助けをしてくれるし、ロケットに乗れば宇宙にだって飛び出せます。そんな夢を身近に感じる第10回信毎こどもスクールが8月10日、

佐久市の県佐久創造館で開かれました。ロボットクリエイターの高橋智隆さん(38)から動くロボットを見せてもらったり、モデルロケットを組み立てて打ち上げたり。さまざまな体験で得た感動を伝えます。



おどったり、話したりもできるロボットのロビ

**千曲市5年 氷熊真湖 記者**

高橋先生が持って来てくれたロボットのロビがとてもかわいかったです。しゃべったり、テレビをつけたり、おどったりできることに、とてもおどろきました。

私が知っているロボットはドラえもんだけれど、ドラえもんはテレビの中にいるから、本物のロボットがこんなにかわいくて、そばで見られたことがうれしかったです。

高橋先生が設計図をかかないでロボットをつくることもすごいと思いました。先生は身近なものをヒントに絵をかいてロボットのデザインをするそうです。私も絵をかくことが好きなので、かわいいロボットをかいて先生に見せたいと思います。

**ロボットってかわいい!**

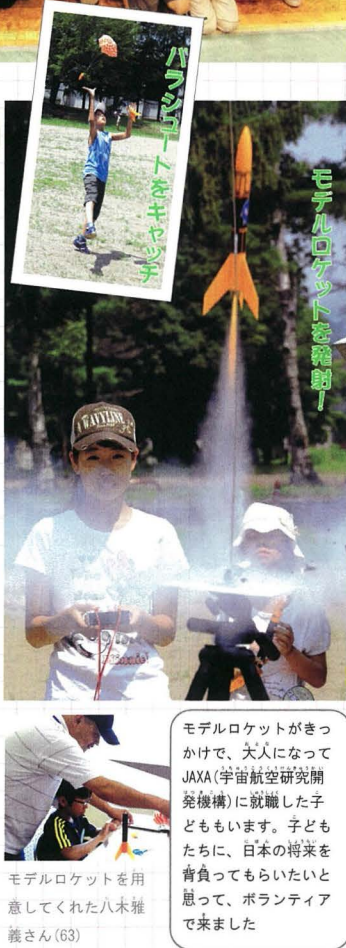
**小諸市5年 高瀬恭子 記者**

わたしは初めてこども記者になって、初めて手作りのロケットを作ることになりました。最初は「ロケットなんて作れるかな?」と思いました。

でも、実さい作っていると、(諏訪東京理科大学の)先生たちが協力してくれて、無事に作る事ができてうれしかったです。

そして、打ち上げの時がやって来ました。何分か待って、わたしの番が来たとき、ドキドキ、ワクワク、それしかなかったです。打ち上げは見事に成功。次のパラシュートも開くはずだったけれど、開かずにやしかったです。

**ロケット打ち上げのとき**



パラシュートをキャッチ

モデルロケットを発射!

モデルロケットを用意してくれた八木雅義さん(63)

**佐久市5年 山崎一磨 記者**

高橋さんの講演で一番心に残ったことは、高橋さんがつくったロボットが登場したことです。

まず、電池のCMでテレビに出ていたエポルタ君が出してきました。エポルタ君は思っていたよりも小さくてびっくりしました。小さいけれど、実際にロープをつかんで少しずつ上っていきました。まるでのぼり棒を上る人みたいでした。

講演が終わったら、ロボットたちを間近で見ることができました。ねじが見えなくて、色がすごくきれいでした。丸みがあって美しくてすごいと思いました。早く高橋さんが言ったロボットとくらす未来がくればいいなと思います。

**エポルタ君、ロープを上る!**

**上市市6年 小山いづ留 記者**

モデルロケットキットを組み立てました。意外とかんたんな構造で、手早くできて良かったです。河村洋先生(諏訪東京理科大学長)からもらったNASAのシールをボディにつけてとてもカッコよくなりました。ロケット打ち上げは成功して、無事回収もできました。

河村先生のお話はとても分かりやすく、宇宙の映像や画像も見せていただきました。河村先生は2008年に、国際宇宙ステーションで、自分で立案した科学実験をした人です。日本実験棟の「きぼう」の大きさは大型バスくらいで、ステーションはサッカー場くらいだそうです。

**NASAシールがすごい**

**佐久市6年 海野膏太 記者**

高橋さんの講演会で初めて知ったことがあります。一つ目は「自由度」という言葉です。これは、ロボットのうでのふりや足の動きといった動作の数のことです。二つ目は「SHIN-WALK」という動作です。高橋さんが開発した「ロボットの歩き方」で、今まではひざを曲げて歩いてたのに、ひざをのびして人のように歩くことができます。

講演会の後に質問して分かったのは、高橋さんが子どものころあまり勉強が好きじゃなかったけれど、いろいろなことに興味があったということ。宇宙ステーションに到着したキロボの値段は「お年玉一生分」くらいだそうです。

**人間のような歩き方、すごい**